



富士特だより

【めざす学校像】

児童生徒一人一人の自立を育てる 笑顔

あふれる学校

富士見市立富士見特別支援学校

令和3年12月24日(金)第9号

「あっという間…」の2学期を振り返って

あっという間の2学期でしたが、それだけ充実した学期であったと感じています。2年振りにふじみっこ祭りや修学旅行、校外学習、東中学校との交流会等が実施できたことが大きかったと思います。中でもふじみっこ祭りは学部別開催でしたが、その分時間的に余裕を持って取り組むことができ、子どもたちが日頃の学習の成果を存分に発揮できた印象です。演じる子どもたちにとって、観ている保護者の皆様や私たちにとっても、思い出に残る感動いっぱいの発表でした。作業学習等で製造した物品販売やふじとく図工美術展では、子どもたちの内なる思いや感性が豊かに表現され、学校全体が明るく彩られました。何よりも、一生懸命作った製品を買っていただいたこと、手に取って喜んでいただいたこと、美術展の作品を見ていただき、認め褒めていただいたことで、子どもたちの自己有用感や自己評価が高まりました。

来年こそは、地域の皆様にも公開し、本校の子どもたちの可能性や感性のすばらしさ、地域にとってもかけがえのない存在であることを実感・共感していただけることを願っております。

校外学習や修学旅行では、乗ることが苦手だったエレベーターにみんなで乗り込むことができたり、初めてのことにチャレンジできたり、仲間や集団を意識した行動ができるようになっていたり、校内では見ることのできない一面を沢山見ることができました。児童生徒の成長に目を見張ることが多くありました。

来年度以降は、子どもたちがより多くの経験を積むことで、子どもたちの日常がより豊かになるように、公共交通機関の利用や泊を伴う県外実施等、少しずつ従来の形に戻すことができるよう心より願っております。

今年の漢字は「謝」です。

先日清水寺で発表された今年の漢字は、オリンピックイヤーに相応しく「金」でした。本校の児童生徒も、みんな金メダルです。そのわけは、児童生徒がそれぞれの課題に向き合い、持てる力を最大限に発揮し、頑張り通した1年であり、みんなが自分の中で1番だったからです。コロナ禍の今年にあっては、特に保護者や地域の皆様にも本校の教育活動をご理解ご支援いただき、温かく見守っていただいたからこそ達成することができたこれらの成果であると考えます。こうしたことから、私にとっての今年の漢字は、「謝」です。「謝」には、感謝や深謝の使い方があるように「お礼」の意味があります。コロナ禍、大きな事件や事故等、大過なく過ごせたことは勿論ですが、再開した学校行事等で多くの子どもたちの成長を実感できただけでなく、こうして2021年を無事に終えられることに心より感謝しております。



また、本校の教育実践と特別支援教育の指導力・専門性を信頼していただき、来年度に向けて多くの児童生徒の皆様にも入学準備をしていただいていることや市内小中学校から数多くのコンサルテーション依頼等を頂いていることにも感謝いたします。本校コーディネーターが中心となって各校を訪問支援し、センター的機能を発揮することで、地域における特別支援教育の推進に貢献できていることは、本校の成長発展にもつながります。

ここで、身近な存在への互いの「感謝」をテーマに、エピソード話と絵本の紹介をさせていただきます。

1つは、身近にある当たり前前の存在に心から感謝することの大切さについての話です。

私たちは、日頃の忙しきや余裕のなさから、大切な人へ、感謝の気持ちを伝えることを忘れてはいないでしょうか。ちなみに「忙しい」は、心を亡くすと書きます。身近な存在を当たり前などと思っていたら、勿体ないどころか、罰が当たります。目の前の当たり前前に感謝しなければならないという、ある精神科医のエピソードを紹介します。彼は、我が子が小児がんに侵されたことをきっかけに、カウンセリングができなくなってしまったそうです。「息子が何の相談もなく勝手に学校を辞めてしまった。殴り合いのけんかになってしまいそうで…」という相談に対して、「我が子が元気で側にいてくれるだけでこんなに幸せなことはない。息子が成長して、殴り合いのけんかのできたなら、それはどんなにか幸せなことだろう…」と思うようになってしまったからでした。

人は、なかなか目の前の身近な幸せと、そうした人の存在の有難さに気付きにくいということなのだと思います。会社経営者で、毎日のように不満ばかり言っている人と、アルバイトでその日暮らしをしながらも、家族や隣人に感謝しながら必死に生きている人がいます。どちらが幸せであるかは、一概に断言できませんが、2人の大きな違いは、他者との比較や理想と現実とのギャップにとらわれることなく、目の前の幸せに気付き、毎日を心から感謝しながら生きることができているかどうか、心が満たされているかどうかだと思います。

もう1つは、障害のある子どもを兄弟にもつ「きょうだい児」を描いた『みんなとおなじくできないよ』という、小児科医である湯浅正太氏の小学校時代の実際のエピソードがつづられている私のマイベストセラーでもある絵本の紹介です。

この絵本には、弟を大事に思う一方で、同年代の子と同じことができない弟の存在を恥ずかしく思ったり、両親の関心が弟にばかり向くことで寂しさを感じたりするきょうだい児ならではの葛藤や複雑な思いがつづられています。本校の図書コーナーにも蔵書されています。是非ご家族で読んでいただきたいと思います。



結びに、今年は、例年よりは少しだけ長い冬休みです。本校に関わる全ての皆様が健康に留意され、あたたかな気持ちで年末年始をお迎えいただけますよう、心よりお祈り申し上げます。

校長 阿部 和彦

11・12月の取り組み

修学旅行(高3)

11月16日(火)、17日(水)に1泊2日で、長瀨・秩父方面に行ってきました。感染対策を何度も確認をし、今年度唯一、宿泊学習を行うことができました。1日目は釣り体験やラフティング体験をしました。夜は満願の湯で温泉に入り、楽しみました。

2日目はF1リゾート秩父で本格的なゴーカートに乗り、風を切って走っていました。



修学旅行(小6)

12月9日(木)、日帰りでグリコピア・イーストと埼玉県こども動物自然公園にバスに乗って行ってきました。ポッキーのあま〜いにおいと、ブリッツの香ばしいにおいが漂う中の工場見学に興味津々。クイズコーナーでは、なんと7問3択に全問正解の児童が出て、校長先生が僅差で2位でした!優勝者にはブリッツの大袋が贈呈され、みんなで分けて美味しくいただきました。こども動物自然公園では、お弁当を食べ、コアラ等の動物を見て、アスレチックで遊びました。お菓子のお土産もあり、大満足の1日となりました。



高1・2校外学習

11月26日(金)に、高等部1・2年生は長瀨方面に行ってきました。長瀨駅近くのお店で、うどんと豚丼を食べ、岩畳まで散策しました。また、川の博物館でアドベンチャーシアターを体験したり、見学したりすることができました。



いのちの授業

11月18日(木)に、学校保健委員会のあと、ゲストティーチャーとして助産師の櫻井裕子さんをお招きして、高等部を中心にいのちの授業を行いました。復習として繰り返し教えていただく内容と、新しい学習内容を座学と実習で学ぶことができました。希望する保護者の方にも参加いただくことができました。



情報あれこれ

- ・例年行われている、キラリ☆ふじみで行われている「市内児童生徒図工美術展」は中止となりました。
- ・お忙しい中、個人面談のご参加ありがとうございました。3学期にも1回予定されています。よろしく願いいたします。(高3は、個別の移行支援会議となります。)
- ・第1回保護者学習会を開催することができました。今回はOB保護者の方に講師を依頼し、13名の方に参加していただきました。1月の第2回保護者学習会は事業所の方が講師です。どうぞご参加ください。